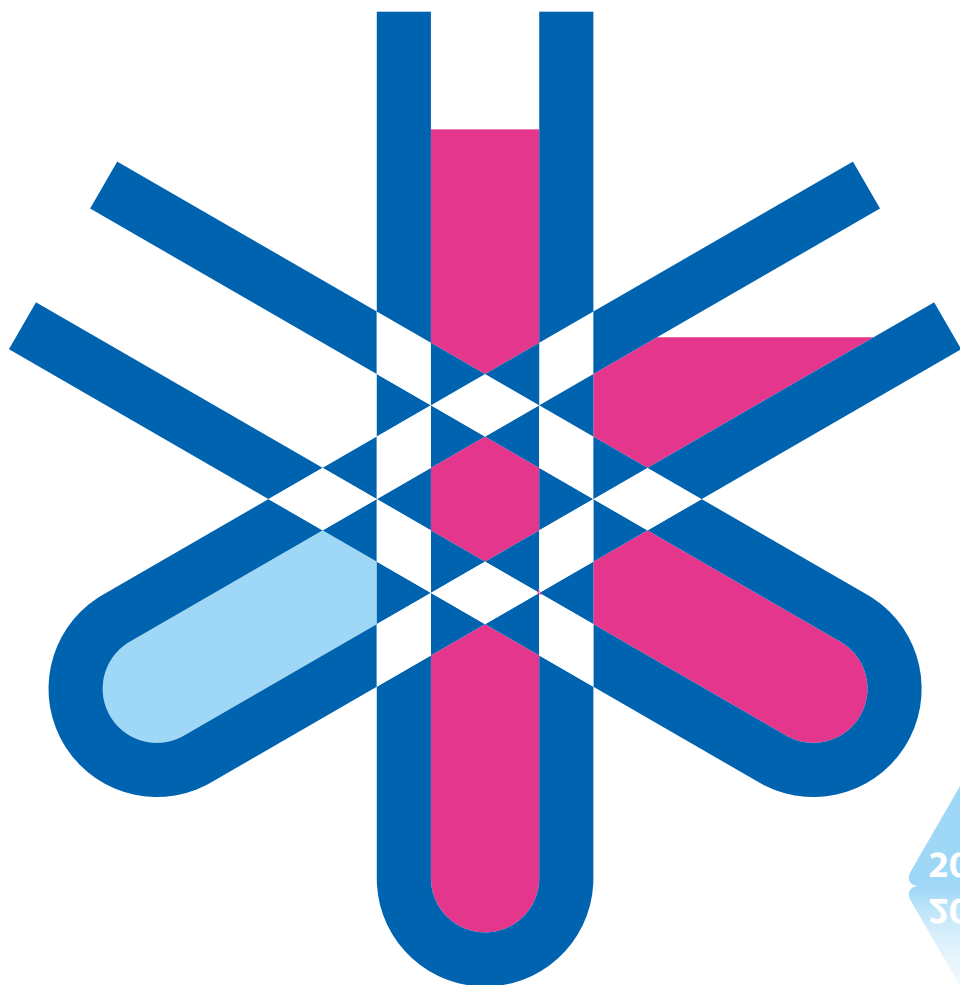


横査情報月報



横浜市衛生研究所

令和7年6月号 目次

【検査結果】

薬事検査結果（令和6年度）	1
---------------------	---

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年5月）	2
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和7年5月）	3
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

薬事検査結果（令和6年度）

健康被害の未然防止のため、医療局医療安全課の依頼により、いわゆる健康食品と称して販売されている製品（痩身または強壮効果を目的とする製品）の「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（医薬品医療機器等法）で規制される成分検査を行っています。

令和6年度は「ダイエット」、「痩身」等を標ぼうするいわゆる健康食品15検体について、センナ、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、エフェドリン、プソイドエフェドリン、メチルエフェドリン、ノルエフェドリン、甲状腺ホルモンの検査を行いました。その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

また、強壮効果を標ぼうするいわゆる健康食品15検体について、メチルテストステロン、ヨヒンビン、シルデナフィル、タダラフィル、バルデナフィル、ホンデナフィル、キサントアントラフィル、チオキナピペリフィルの検査を行いました。その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

表 令和6年度いわゆる健康食品中の規制成分検査結果

「ダイエット」、「痩身」等を標ぼうするいわゆる健康食品

検査項目	検査検体数	検出検体数
センナ	15	0
フェンフルラミン	15	0
N-ニトロソフェンフルラミン	15	0
エフェドリン	15	0
プソイドエフェドリン	15	0
メチルエフェドリン	15	0
ノルエフェドリン	15	0
甲状腺ホルモン(L-チロキシン、3, 3',5-トリヨード L-チロニン)	15	0

強壮効果を標ぼうするいわゆる健康食品

検査項目	検査検体数	検出検体数
メチルテストステロン	15	0
ヨヒンビン	15	0
シルデナフィル	15	0
タダラフィル	15	0
バルデナフィル	15	0
ホンデナフィル	15	0
キサントアントラフィル	15	0
チオキナピペリフィル	15	0

【 理化学検査研究課 薬事・家庭用品担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年5月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年5月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和7年5月に追加・更新した主な記事は、3件でした。

掲載月日	内容
5月2日	伝染性紅斑流行情報
5月7日	百日咳流行情報
5月15日	感染症に気をつけよう(5月号)

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

伝染性紅斑流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/erythema-infectiosum.html>

百日咳流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/pertussis.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年5月）

《今月のトピックス》

- 百日咳の報告数が急激に増加しています。
- 伝染性紅斑の報告数が高い水準で推移しています。
- 感染性胃腸炎の報告が再び増加しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生しており、引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 ＜2025年4月21日～5月18日に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
腸チフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
パラチフス	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	15件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	22件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件	百日咳	141件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

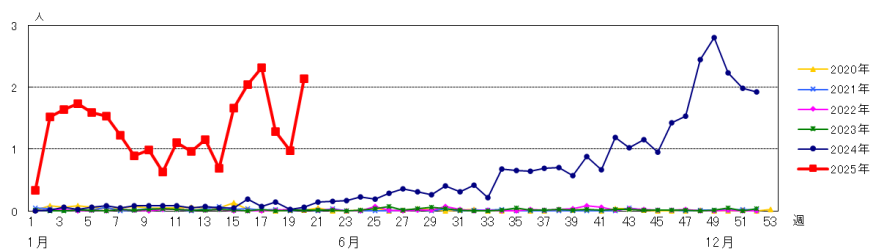
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代～40歳代で、O血清群はO26が1件、O157が1件、不明が1件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
2. **腸チフス**:10歳未満で、海外での接触感染と推定されています。
3. **パラチフス**:10歳代で、海外での接触感染と推定されています。
4. **E型肝炎**:50歳代及び60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
5. **レジオネラ症**:60歳代及び90歳代で、いずれも肺炎型です。感染経路等は不明の報告が2件です。
6. **アメーバ赤痢**:40歳代～60歳代で、性的接触(異性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:40歳代～70歳代で、感染経路等はいずれも以前からの保菌と推定されています。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:いずれも80歳代で、血清群はB群です。尿路感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、感染経路等は不明です。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:60歳代～80歳代(ワクチン接種歴不明4件)で、以前からの保菌疑いと推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
11. **侵襲性髄膜炎菌感染症**:70歳代で、接触感染と推定されています。
12. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、無5件、不明9件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が6件、その他の感染経路と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が7件です。
13. **水痘(入院例に限る)**:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等は不明です。
14. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が20件(異性間17件、同性間2件、詳細不明1件)、感染経路等不明が2件です。
15. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回58件、3回3件、2回1件、1回1件、無8件、不明69件)で、家族内感染と推定される報告が34件、周囲の流行と推定される報告が14件、感染経路等不明の報告が93件です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第17週	4月21日～4月27日
第18週	4月28日～5月 4日
第19週	5月 5日～5月11日
第20週	5月12日～5月18日

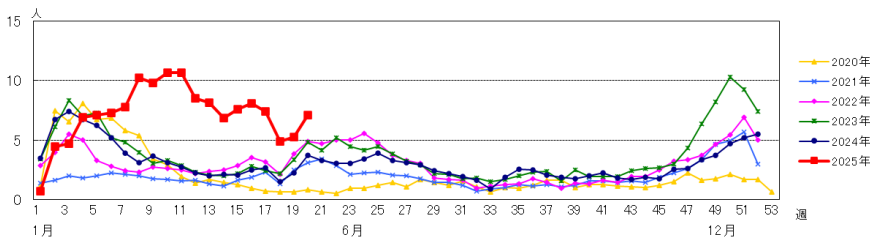
1 伝染性紅斑

2024年6月頃より増加傾向となり、以後は例年よりも患者数が多い状態で推移しています。第20週は2.14です。



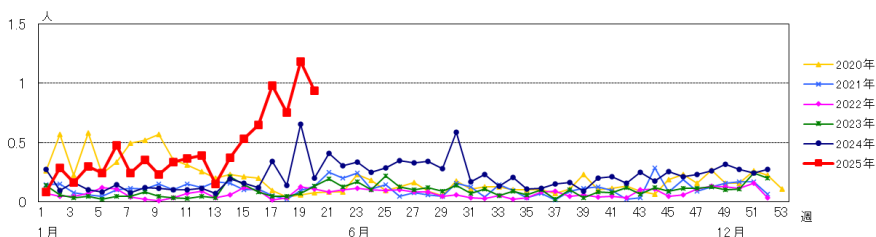
2 感染性胃腸炎

2025年第3週(1月13日～1月19日)以降、概ね横ばいから緩やかな減少傾向に転じていましたが18週(4月28日～5月4日)以降再度増加しつつあります。第20週は7.12です。



3 水痘

2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、増加傾向に転じています。第20週は0.94です。



4 性感染症(2025年4月)

性器クラミジア感染症	男性:41件	女性:29件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性:27件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:13件	女性: 4件

5 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.25	0.25
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	0.50	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.50	0.00

6 基幹定点月報(2025年4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

2025年第17週～第20週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点107件、小児科定点2件でした。

5月27日現在、表に示した各種ウイルスの分離6株と遺伝子33件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第17週～第20週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフル エンザ	新型 コロナ ウイル ス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
インフルエンザウイルス	－		－	
	3		6	
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)		－	2	
		1	5	
RS ウイルス			－	－
			4	1
パラインフルエンザウイルス 2型			2	1
			－	－
アデノウイルス 2型			－	
			2	
ライノウイルス			1	－
			5	6
合 計	－	－	5	1
	3	1	22	7

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025 年第 17 週～第 20 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 6 件、腸チフス 1 件、パラチフス 1 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 5 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症 2 件、腸チフス・パラチフス混合感染疑い 2 件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎 9 件、感染性胃腸炎 1 件でした。4 月 7 日から開始された急性呼吸器感染症サーベイランスを実施する「ARI 定点」からの検査依頼は 107 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025 年第 17 週～第 20 週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
保健所		腸管出血性大腸菌感染症	6	O157 : H7 VT2 (1) O146 : H21 VT2 (1) Og100 : H－ VT2 (3) OgUT : Hg7 VT2 (1)	
		腸チフス	1	Salmonella Typhi (1)	
		パラチフス	1	Salmonella Paratyphi A (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	Escherichia coli (2) Escherichia hermannii (1) Klebsiella aerogenes (1) Citrobacter freundii complex (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	Haemophilus influenzae 型別不能 (3)	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	B群溶血性レンサ球菌 I a型 (1) B群溶血性レンサ球菌 IV型 (1)	
		侵襲性肺炎球菌感染症	1	Streptococcus pneumoniae 15B型 (1)	
		侵襲性髄膜炎菌感染症	1	Neisseria meningitidis Y群 (1)	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	Staphylococcus aureus TSST-1+、PVL+ (1)	
分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		レジオネラ症	2	喀痰	培養 陰性 (2)
		腸チフス・パラチフス	2	血液培養 ボトル	Salmonella Typhi (1) Salmonella Paratyphi A (1)
小児科サーベイランス		材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭又は鼻咽頭 ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	A群溶血性レンサ球菌 T4 (5) A群溶血性レンサ球菌 T群別不能 (1) 培養 陰性 (3)	
	直腸ぬぐい液	感染性胃腸炎	1	培養 陰性 (1)	
ARIサーベイランス		材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	鼻咽頭ぬぐい液 鼻汁 等	ARI	107	百日咳菌遺伝子 陽性 (0) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陽性 (0)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】